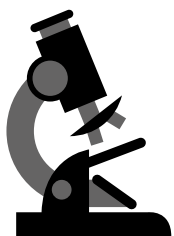
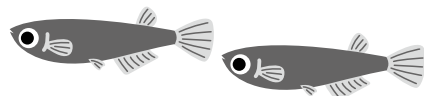


# 勝手に好奇心の **特別編** であつこ勝負! KOKO生物部



先月号のKOKO生物部でメダカの習性を調べる実験を紹介したよね。メダカってとってもおもしろい生き物で、もっともっと知りたくなる。そこで今月はメダカ研究で世界的に有名な新潟大学理学部教授の酒泉満先生に、たっぷりとお話を伺ってきたよ!

取材協力 / 新潟大学理学部 酒泉 満 教授  
取材・文 / 山村紳一郎



## 夏休みはメダカで自由研究!

### 1. メダカってそもそもどんな魚?

#### 日本には2種類のメダカがいる

メダカはダツ目メダカ科の淡水魚で、世界では東南アジアを中心に約30種がいる。少し前までは水田や生活用水路など、北海道以外のどこでも見られたおなじみの魚だ。

「人間よりずっと以前から日本列島に棲んでいた、たいへん身近な“野生動物”なんですよ」と、新潟大学の酒泉満先生。また先生によれば「条件が揃えばいつでも繁殖するため、卵から親までの一生をまるごと観察できます。メダカは生物の研究に適した魚なんです」とのこと。

先生は1980年ごろから各地を訪ねてメダカの遺伝子解析を行い、日本には2種類のメダカがいることを明らかにした。それらは2011年12月に、ミナミメダカとキタノメダカと命名された(図1)。キタノメダカの発見者ということでキタノメダカの学名が「*Oryzias sakaizumii* (“酒泉のメダカ”という意味)」になったんだ。

#### 図1 ● ミナミメダカとキタノメダカの分布

